

# IRを活かす人は誰なのか

嘉悦大学  
北陸大学  
IRシンポ 現場の知見持ちよる

3月7日、東京・小平の嘉悦大学とオンラインで、嘉悦大学・北陸大学IRシンポジウム2023が開催された。テーマ「IRを活かす人々は誰なのか?—教育マネジメントからIRを捉え直す」。なお、同シンポジウムについては、本紙が後援した。

IR組織がほとんどの大学に設置されるようになった昨今、しかしながら

結果が大学の意思決定に活かされているのか。こ

ら、どこまでIRの分析を踏まえながら探る。プログラムは講演者の各講演の直後に、講演内容を踏まえて4人がディスカッションを行うかたちで行われた。

まず、大学改革支援・学位授与機構研究開発部の寫田敏行教授が、「大学IRにおけるポトルネックはなにか?」と題して講演した。

我が国におけるIRの歴史を簡単に振り返り「IRとは何か。大学によって定義や役割はそれぞれだが、まず依頼者がいないIRはあり得ない」などと指摘した。ま

た、「日本型IRの特徴」にも言及し「学内には様々な問いや課題があるはずなのに、IR担当者には入ってこない。現場とIRの間には違いが起きているのでは」といった現状を報告した。

次に、名古屋大学教育基盤連携本部高等教育システム開発部門の和嶋雄一郎特任准教授が「自分のために使う教学IR」と題して講演した。和嶋特任准教授は「ポトルネック型教学マネジメント」を提唱し、そのために教学IR担当者が中心

の役割を担ってはどうかと提案した。「まずは自分の業務でIRを用いた改善を始めて見て、それを広げていくことが重要」とした。また、現場のデータを関係者が、ま

実質的なIRについてディスカッション

た、「日本型IRの特徴」にも言及し「学内には様々な問いや課題があるはずなのに、IR担当者には入ってこない。現場とIRの間には違いが起きているのでは」といった現状を報告した。

次に、名古屋大学教育基盤連携本部高等教育システム開発部門の和嶋雄一郎特任准教授が「自分のために使う教学IR」と題して講演した。和嶋特任准教授は「ポトルネック型教学マネジメント」を提唱し、そのために教学IR担当者が中心

の役割を担ってはどうかと提案した。「まずは自分の業務でIRを用いた改善を始めて見て、それを広げていくことが重要」とした。また、現場のデータを関係者が、ま

た、「日本型IRの特徴」にも言及し「学内には様々な問いや課題があるはずなのに、IR担当者には入ってこない。現場とIRの間には違いが起きているのでは」といった現状を報告した。

次に、名古屋大学教育基盤連携本部高等教育システム開発部門の和嶋雄一郎特任准教授が「自分のために使う教学IR」と題して講演した。和嶋特任准教授は「ポトルネック型教学マネジメント」を提唱し、そのために教学IR担当者が中心

の役割を担ってはどうかと提案した。「まずは自分の業務でIRを用いた改善を始めて見て、それを広げていくことが重要」とした。また、現場のデータを関係者が、ま

るでこたつに集まってきて建設的な熱のある話し合いをする「おこたIR」も提案。小さくても始めてみるのが大切と訴えた。

北陸大学学長補佐(情報・IR担当)の田尻慎太郎教授は、「教育の質は可視化できるのか?」と題して、同大学のデータ分析科目の実例を紹介した。

数年間にわたる試行錯誤で、企業などからデータ提供を受けそれをもとにtableau等で分析する練習をし、最後には学生が学内データを用いて演習を行い、それを実際にIRに結びつける「北陸モデル」について解説した。

また、教育の質の評価方法について、いくつかの手法を紹介する一方、見えないものを数量化するのには簡単ではないと述べた。そして、データが扱える人材をどう育成するのも重要と力を込めた。最後に、嘉悦大学I

R・データインフラ推進室の白鳥成彦室長が「学生の成長と教学IR」と題して問題提起した。白鳥室長は「単にデータを出すだけではなく、どういう依頼者が何に利用するかを見据える必要がある」として、同大学で行われている教学イベント「アセスメントウィーク」について触れた。これは、教学IRのデータについて、このデータを見ながら、学生と教職員が一緒に議論できる場もセットで提供するものがある。

その後、4人の講演者はそれぞれ総括をして閉会となった。

IR部門を設置はしたが、だれが何の目的でデータを集めるのかが明確ではないケースは多い。それはデータをもとに大

学経営を行う習慣の不足と、データ分析の自分事化が不十分であることも関係があるだろう。目的が曖昧なままデータを集めると担当者は不幸にな

ってしまう。

イベント終了後に、同企画を主催した白鳥教授は「日本の大学でIR組織が作られはじめて約10年ですが、まだIRが形だけといったところも多

いです。それぞれの大学ごとにIR組織の形や役割は大きく変わりますが、自大学の改革の方向性に関連するデータを利